

第1 ドリーム保育園便り

炭火でサンマを焼



秋の味覚

～心から美味しいを感じる～

秋の味覚、旬のさんまを炭火で焼いて食べる経験を、ドリーム保育園では毎年行っています。さんまは毎年不漁が心配されるようになってきました。今年は、さんまの価格が減少傾向にならなかったことから、保護者の方から、昨年度の価格差を手出ししていただきました。子ども達も、目の前で炭火焼きしたさんまを食べる事ができました！ありがとうございました。「骨があった！」と、口にした魚の骨を、しっかりと取り出したり、見分けて取り除いて食べている子ども達。日頃の給食から、1尾の魚を食べているドリーム保育園の子ども達なので、魚には骨がある事を知って食べ炭火で焼いたさんまのおいしさを感じられる子ども達！『さんまおいしい!』といって一尾食べつくしていました！！



収穫祭 ～新米をいただく



今年は年長さん親子が手がけた、ドリーム新米を田んぼでいただきました！お米を作る田んぼで、ガス釜を準備して、新米と味噌汁を栄養士に作ってもらいました。子ども達は、ご飯ができるまでの間、田んぼあそび！！自然豊かな環境で、毎日工夫して遊んでいるドリームの子も達だからこそ、わらを飾り収穫祭の看板作りを職員がしていると、落ち穂を拾い集めてくる子もいたり、田んぼのあぜ道に咲いている草花を摘んだり、オニゴっこをしたりと、何も無い田んぼでもいろんなあそびを見つけて遊んでいました。なんとと言っても、何度も目の前を列車が通るロケーションは、子ども達の楽しさを大きくしてくれました！！

ご飯と味噌汁ができると、年長さんから『お米ができるまで』のお話しをしてもらった時間も、小さい子達は年長さんの一生懸命な語りから、大変さやすごさを感じていました！景色を眺めながら、できたてホクホクの新米に、味噌汁のあたたかさを味わいながら美味しくいただきました！



季節により自然や人間の生活に変化のある事に気づく

園の外に出掛けると、季節による自然や生活の変化を感じる機会が多い。園児が四季折々の変化に触れる事ができるように、園外の活動を計画していくことも必要である。かつては、地域の人々の営みの中にあふれていた季節感も失われつつある傾向もあり、秋の収穫に感謝する祭り、節句、正月を迎える行事などの四季折々の地域や家庭の伝統的な行事に触れる機会を持つことも大切である。

幼保連携型認定こども園 教育・保育

青森産のリンゴを1個まるかじり



りんごの美味しいこの時期に青森産のりんごを準備しました！子ども達に目で見てもらえるように、前の日から竹カゴに入れておきました。子ども達も、目の前に置いてあるりんごを見るなり、「おいそ〜！」と声上がり、においを嗅いでいました。味覚は目から！といわれているとおり、見て美味しさを感じていました！

りすぐみにも小ぶりのりんごが渡り皮ごとかぶりついていました！毎日の給食で食べているカミカミで咀嚼力も強くなってきています！！うさぎくみは園庭の山のとっぺんで、気持ちよく周りを見渡しながりんごを食べてみました！しっかり手で握りながら、落とすことなくかじって食べました！

ひつじくみ・ぞうくみ・きりんくみは、かごにりんごを入れ広場まで行って食べてきました！手に取ると「おいそ〜！」と喜ぶ声上がり「ガブッ！」と丸かじりを始めていく子ども達。皮からドンカじりはじめていける事が嬉しくなってきて「みてー！ここまで食べたよ！」と歯の形がこんなになった！と次々に声が上がりました。中でもりんごの真ん中までくると「蜜が甘〜い！！」と年長さん！それにつられるように「これ蜜？」と問い返すひつじ組とぞう組の子達。大きい子と一緒に食べた事で、りんごの蜜を学ぶ事ができました！！中には、食べ終わった後に種を植えに行っていたひつじ組の子もいました！「外で食べれて美味しかった！！」との感想もたくさんあり、美味しいりんごを気持ちの良い環境の中で食べることができ、美味しさも増し、心も満足した子ども達でした！！



ひとつの布から作り出す ～縄跳び作り (年長)～

仲間と共に

赤・青・黄・紫・黄緑・桃の6色の一反の布を6つにさき、前の人と同じ色の組み合わせにならないように、2色で3本を選んでいきます。結び目を足の指で挟んで、編み込んでいく作業。一度編み上げても緩かったり絡まっていたらほどいて結び直す、、、自分の納得いくまで編み込んでいく子。途中「できないよ～」と泣き出す子もいましたが、友だちから教えてもらったり励まされながら、一週間の期間で自分の縄跳びを作り上げました！！ これまでの全身の発達が指先の操作につながる活動です。この時期までやりたいと思ったこと、楽しいと思うことを存分にしてきた経験が、少々つらくても、面倒なことでも頑張る気持ちの糧となります。



子どもたちが「こうしたい」「こうなるといいな」の思い、憧れや希望を持てる生活をドリーム保育園では大切にしています。子どもたちにとって、その経験の積み重ねが、目標達成するまでに感じるモヤモヤしたマイナスの思いや失敗を払拭しながら、苦勞してやり遂げる力や、喜びが心の底から湧いてきて、その後の生きる力になるのだと考えています。

基礎となるのは体験の豊かさ

～大人のサポートで疑問をより豊かな世界で～

体験して感じたことは、感情体験の土台になってきます。上手いくと「どうして」「なんで」「わかんねえ」と言った疑問や驚きなど、様々な感情の世界が、体験から湧いてくるのです。

そして、「どうしたらもっと大きなものがつくれるだろう」とか「もうちょっとおもしろく遊ぶにはどうしたらいいかな」など、あるいは「かぶとむしはどうすればとれるかな」「クワガタをもっとちゃんと育てるにはどうしたらいいだろう」など、課題意識や疑問を持つようになります。こうなると、放っておいても子どもは考え、工夫するようになります。これが知的土台つくりになるのです。

この場合、そばに大人がいて、適切に関わってあげると、驚きや疑問の世界はより豊かになっていくことはわかるでしょう。ここにパパやママ、あるいは保育者や学校の先生の役割があります。

体験というのは、するだけでは中々豊かな感情体験にならないですぐに忘れていきます。

実体験や感動体験をたくさんさせて土台をしっかり気づく事がまず大切ですね。

幼児先生の手帳から「遊ぶの基本は好奇心です」著書：沼見裕志

薄着で元気！



子どもは薄着がよい理由は

ドリームでは、子どもは大人より1枚少なく、ぶかぶかの服で薄着をさせて下さいとお願いをしています。それは、子どもが心地よく過ごせるからです。

風邪をひいてしまうのでは？子どもが寒そうなのに・・・(´_`)と思われていませんか？

薄着が良い理由は



①子どもが動きやすい

体が窮屈でなく、心地よく過ごすことが大切です。

②子どもには褐色脂肪細胞がある

褐色脂肪細胞とは・・・自分自身の体の中で熱を作り続け、常に一定以上の体温を確保するものの。

新生児にもっとも多くもち、大人になると赤ちゃんのころの4割程度まで減少する。

子どものときに肌が常に冷たい外気にさらされていると、この細胞が活性化して自分自身で寒さから身を守り、免疫力も保たれ、病気になりにくくなるのです。だから、かえって薄着の方がよいのです！

子どもが元気よく気持ちよく過ごせることが一番(*^_^*)日中用の薄着の準備をお願いします。子どもたちの元気な体づくりのためにご理解お願いいたします☆

